

## 当院小児病棟職員の Cytomegalovirus (CMV) 抗体保有率状況の検討

<sup>1</sup>公立昭和病院 小児科、<sup>2</sup>公立昭和病院 検査科、  
<sup>3</sup>公立昭和病院 感染症科

○村田 岳哉<sup>1</sup>、田中 智子<sup>1</sup>、大場 邦弘<sup>1</sup>、横沢 隆行<sup>2</sup>、  
青木 茂行<sup>3</sup>、小田 智三<sup>3</sup>

【はじめに】Cytomegalovirus (CMV) はヘルペス科に属する DNA virus であり、免疫抑制状態の患者、CMV 抗体陰性の母親から出生した新生児での感染が問題となる。先天性 CMV 感染症児の当院 NICU 入院を機に、院内感染対策目的で小児病棟職員（女性）の CMV 抗体保有状況を調査したので報告する。CMV 抗体の保有状況は本邦、海外ともに報告が少なく、本報告は最近の調査としても貴重であり報告する。【方法】対象は当院小児病棟に勤務する 25~57 歳の女性職員（医師、看護師）34 例（20 歳台 14 例、30 歳台 14 例、40 歳台 4 例、50 歳台 2 例）のうち、同意の得られた 23 例（20 歳台 11 例、30 歳台 11 例、40 歳台 1 例）で、2012 年 1 月に採取された検体を用いた。CMV 抗体は酵素免疫法（EAI）より測定した。【結果】23 例の CMV 抗体陽性率を検討した。20 歳台 11 例中で 5 例（46%）、30 歳台 11 例中で 9 例（82%）、40 歳台 1 例で 1 例に陽性を確認した。【考察】本邦の報告では男女の 10 歳未満の 60%、10 歳台の 70%、20 歳台の 80%、30 歳台の 90%、40 歳台の 95%、50 歳以上のほぼ全例で CMV 抗体陽性であった。女性を対象とした 1980 年代の他の報告では 10 歳台（16~19 歳）の 77%、20 歳台の 86%、30 歳台の 94%、40 歳台の 98%、50 歳以上（50~63 歳）の 99%で CMV 抗体陽性であった。海外では Finland の 1965 年の報告で 10~12 歳の 47%、15~35 歳の 68%、36~60 歳の 81%で CMV 抗体陽性であった。過去の報告と比べて、本報告の 20 歳台、30 歳台の CMV 抗体の陽性率は著しく低く、この抗体保有率の低下は、過去と比較して CMV に対する感染機会の減少が想像される。また、本邦での公衆衛生の改善により、CMV 抗体保有率が低下したと推察される。

## 群馬大学医学部新入生、医学部附属病院新入職研修医の風疹、麻疹、ムンプス、水痘抗体保有率

<sup>1</sup>群馬大学 医学部 臨床検査医学、<sup>2</sup>群馬大学 医学部 附属病院 感染制御部、<sup>3</sup>群馬大学 医学部附属病院 検査部

○木村 孝穂<sup>1</sup>、徳江 豊<sup>2</sup>、荻原 貴之<sup>2</sup>、奈良 誠人<sup>2</sup>、  
森村 匡志<sup>3</sup>、青木 智之<sup>3</sup>、村上 正巳<sup>1,2,3</sup>

目的 2007 年の 10~20 代を中心とした麻疹流行をきっかけに群馬大学医学部では 2007 年から医学部新入生、新入職の研修医に対し風疹、麻疹、ムンプス、水痘の抗体の有無を検査し、非保有者に対してワクチン接種を実施している。2007 年から 2012 年までの抗体検査の結果を報告する。方法 検査の同意を得た群馬大学医学部（医学科、保健学科）の新入生（男性 593 人、女性 1153 人、計 1746 人）と新入職の研修医（男性 123 人、女性 71 人、計 194 人）を対象とした。風疹、麻疹、ムンプス、水痘の各抗体価は EIA 法で測定した。結果 医学部新入生の抗体保有率：風疹は 2008 年が最低(86%)でその後上昇し 2009 年以降 90%以上であった。麻疹は 2007 年が最低(53%)でその後上昇し 2009 年以降は 90%以上であった。ムンプスは 2007 年が最低(66%)でその後 82%に上昇した。水痘は 2007 年から 2012 年まで 90%以上であった。研修医：風疹は 2011 年の 84%を除くと 90%以上であった。麻疹は 2010 年が最低(52%)でその後も 90%に至っていない。ムンプスは 2007 年の 74%から徐々に上昇し 93%となった。水痘は 2010 年の 78%を除き 90%以上であった。結語 2007 年の麻疹の流行をきっかけに予防接種が促進された結果、医学部新入生では麻疹抗体保有率 90%以上に上昇したと考えられるが麻疹ワクチンの定期接種対象外の研修医では麻疹抗体保有率 90%未満であった。任意接種であるムンプスは抗体保有率が上昇しているが 2012 年の新入生で 82%である。一方、ムンプス同様任意接種である水痘は新入生、研修医ともに 2007 年より抗体保有率 90%以上であった。院内感染対策上、学生、研修医の抗体保有率は 100%であるのが望ましい。今後も新入生、研修医に対する抗体検査を継続しワクチン接種を続けていく必要があると思われる。